

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立相川小 学校

| | |
|---------------|--|
| 厚木市教育委員会の基本目標 | 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 |
| | 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 |
| | 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】 |

校長名 大田 垣 洋

| 学校教育目標 | 学校経営の方針 |
|------------------------------|--|
| 確かな学力と 豊かな心を持ち 未来を切り拓く 児童の育成 | <p>○教育基本法等関係諸法令並びに学習指導要領・神奈川県教育ビジョン・厚木市教育大綱に基づいた学校経営を展開する</p> <p>○児童・保護者・地域の実態を踏まえ、「地域とともにある学校」づくりをめざし、全教職員と保護者・地域の協働による学校運営が図られるような学校経営に努める</p> <p>○児童が安心・安全に生活・学習できるように危機管理体制を確立した経営に努める</p> |

今年度の重点目標

- (1) 学ぶ力の育成(生きる力の育成、確かな学力の向上をめざす)
- (2) 豊かな心・健やかな体の育成(豊かな心の育成と安心・安全教育、健康教育・道徳教育の充実を図る)
- (3) 自ら未来を切り拓く力・実践力の育成(自主的実践的な態度の育成、環境教育の充実をめざす)
- (4) 学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり(学校管理体制の確立と開かれた学校づくりをめざす)

| 評価項目・指標等 | 基本目標との関連 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 次年度への具体的な改善策 |
|--|----------|--|---|---|
| (1) 学ぶ力の育成 ○確かな学力の向上をめざして ○地域との連携による授業の創造 ○幼・保・小・中との連携 ○歌声あふれる学校 | 1・3 | <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の向上 ・主体的な学びを促す授業 ・効果的な教育課程の編成 ・幼保小中の連携 ・ICTの効果的な活用 ・情報モラル教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究「自分で考え、自分で決めて、主体的に学ぶ児童の育成 ～先生も子どもも楽しい授業づくり～」を通して、主体的な学びを促す授業実践に取り組んだ。児童が考えたいと思える授業、自ら選ぶことができる授業、共同的に学べる授業を展開することで主体的な学びを促すことができた。 ・学力向上に関する取組を「学力向上カレンダー」にまとめ、年間を見通し計画的に進めることができた。 ・全国学力学習状況調査の結果や、業者の学力調査(算数)の結果を考察し、児童につけさせたい力について検討することができた。 ・家庭学習の手引きや音読カードを使い、家庭学習の習慣化を進めた。 ・学校司書に学習に関する資料の準備、授業中の支援や図書室運営をしてもらうことで、調べ学習、読書月間の活動などに深まりをもたせることができた。また、読書スタンプカードや本の福袋といった図書室に足を運ばせる工夫を通して委員会活動も活性化された。 ・地域、保護者の協力が得られ、田植えや稲刈り、いもほり等では、地域の教育力を生かした授業を行うことができた。 ・学校運営協議会では、各部会ごとの打ち合わせをもった。本の読み聞かせや家庭科ボランティア・九九塾等を中心に、たくさんの地域の方や保護者が支援をしてくれている。 ○ICTについては、技能とともにモラルやマナーについても学び、情報機器が正しく活用できるようにしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、教師間で共通理解を図り、確実に課題への取組を行いたい。 ・わかる授業の実践に取り組むとともに、主体的に取り組む児童を育成する。 ・学校運営協議会と連携し、地域の教育力を生かした授業を実践し、授業ボランティアの活用を進める。 ・家庭学習の習慣化をさらに進められるよう家庭との連携を行う。 ・漢字や言語能力の定着については、各学年で習熟方法の工夫を模索する。 ・特別の教科道徳を通して自分の考えや思いをまとめるようにする。 |

| | | | | |
|---|--------------|---|---|---|
| <p>(2)豊かな心・健やかな体の育成 ○個を大切にした支援教育の充実 チームで取り組む児童支援 ○きめ細かな児童指導の推進 ○人権教育の充実とインクルーシブ教育の充実 ○健康教育の推進 ○体力づくりの推進</p> | <p>1・2</p> | <p>・児童理解と支援教育の充実 ・健康教育、体力づくり ・個に応じた支援の充実 ・人権教育、インクルーシブ教育の充実 ・道徳教育の充実 ・みんなで取り組むきれいな環境づくり</p> | <p>・今年度は人事異動による入れ替えが例年より多かったため、引継ぎをもとに児童理解と情報の把握に努めた。 ・児童指導・支援においては、組織的対応を基本とし、校内連携に努めた。 ・登校渋り、不登校対策、インクルーシブ教育として、校内教育支援センター(心の相談室・リソースルーム・フリールーム)を活用し、保健室や図書室、スクールカウンセラー等の機能を含め、児童の相談・居場所づくりと学習支援の充実を図るとともに、児童が自信をもって学校生活を送れるようステップの支援に重点を置いた。 ・児童や保護者からの相談については、迅速でいねいな対応を大切に、安心して過ごせる学校づくりに努めた。 ・人権教育では、通常の授業だけでなく、児童委員会が中心となって、児童自身が日ごろの友達との良い関わりについて振り返る活動を行った。 ・相川小スタンダードをもとに、学校生活の約束事の再確認を行った。 ・熱中症対策、感染症予防においては、学校医・学校薬剤師等の助言をもとに、安全な環境で教育活動を行うこととした。 ・包括的性教育として、自他のいのち、からだ、こころを大切にできる子どもの育成を目指し、養護教諭を中心に系統的な保健教育を実施した。 ・学校保健委員会では、地域を含め、様々な集団災害に対する対応の基礎を学び考えた。 ・週3日のたてわり清掃活動で足りない部分は、用務員やスクールサポートスタッフの協力も得ながら、校内の衛生環境を維持することができた。</p> | <p>・教職員がそれぞれ自身の強みを生かしながら、児童のところに寄り添った対応を行い、全児童がより健やかで安心して過ごせる学校づくりに努める。 ・課題や問題行動の対応には、その背景を丁寧に把握し、その場限りでなく、児童にとって半永続的な学びとなる指導を行う。 ・校内教育支援センターをはじめ、教職員一人一人が協働しながら子どもを支えていく体制を強化するとともに、外部の専門機関等と連携を継続していく。 ・体育、食育、保健教育、人権教育等を通して、児童が自ら心身ともに健康でたくましく成長していける教育活動を継続する。 ・校庭の使用ルールなどを明確化・再確認し、事故防止に努める。</p> |
| <p>(3)自ら未来を切り拓く力 実践力の育成 ○自主的・実践的な態度の育成 ・自己肯定感を高める活動の推進 ○児童の安全確保と危機管理体制の維持・推進 ○環境教育(SDGs)の充実</p> | <p>1・2・3</p> | <p>・自主的実践的な態度の育成 (縦割り班・児童会活動の充実) ・安心、安全な学校づくり ・生活、総合の時間の充実 ・環境教育(SDGs)の充実</p> | <p>・児童会活動では、子どもたちが中心になって行事の計画を立て、主体的に運営することができた。行事後、各クラスで反省を行い、よりよい行事へ向けて全学年で考えることができた。また、あいさつ運動など、学校全体の課題にも目を向けて解決策を探り、実行に移すことができた。 ・安心、安全な学校づくりに向けて、避難訓練等の改善を図った。より現実味のある避難を想定して訓練を行うことができた。また、日頃からの安全点検もしっかりと行い、教職員全員で学校の安全に目を向けることができたのではないと思う。 ・相川冒険隊(縦割り活動)では、田植えや稲刈り、清掃を通して異年齢での交流を深めることができた。春みつけや秋みつけでは、児童が目的意識をもって活動できるよう、例年とは違った内容に取り組むことができた。 ・今年度は、「相川小学校SDGsプロジェクト」～相川地区の自然・伝統を生かして相川小学校をもっとすてきなところにしよう～学校全体のテーマとして、生活科・総合的な学習の時間の充実を図った。年間計画や各学年のテーマを見直し、PDCAサイクルを意識して課題解決学習に取り組んだ。それぞれの学年で環境教育についても扱い、意識して指導した。</p> | <p>・児童会活動においては、来年度の年間計画の見直しを行いいたい。代表委員会を中心として、より円滑に効率よく話し合いや行事を進めていけるよう工夫したいと考えている。他教科との関連、他の行事との関連という視点でもしっかりと特別活動のあり方を見直していきたい。 ・相川冒険隊の活動は、異学年で行っているため、児童の学びは大変多いと感じる。来年度も継続して充実した活動を続けたい。 ・来年度は、どの学年でもSDG'Sをより意識できるよう働きかけていきたい。環境だけではなく、持続可能な社会の実現に向けてできることを常日頃から意識できるよう指導をしていきたい。</p> |

| | | | | |
|---|----------|--|--|--|
| <p>(4) 学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり ○「地域とともにある学校づくり」「開かれた教育課程」の推進 ○学校評価と連動した組織運営の確立と学校情報の発信 ○危機管理体制の確立 ○組織運営を考えた学校配当予算と補助金の適切・効果的活用 ○地域とともにある学校を目指した施設活用・開放の推進 ○「働き方改革」の積極的な推進</p> | <p>3</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の活性化 ・地域学校協働活動の推進 ・危機管理体制の確立 ・学校情報の発信 ・働き方改革 ・情報機器の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動に向けて、地域人材による学習活動支援・地域に関わる授業等、学校教育活動の中での地域の活用が見られた。また、学校運営協議会の企画による催しも行われ、学校主体のみではない、それぞれの役割を生かした活動を実施することができた。 ・危機管理体制の確立について、市教委と連携し、非常時に対する備えだけでなく、学校の施設面においても、安全点検をもとにした環境整備や迅速な修繕対応等により、児童の安全確保に努めることができた。学校評価から施設等の環境整備や安全意識の醸成について把握し、実践できている現状を維持するように努めた。 ・学校情報の発信について、学校ホームページ、学校だより、学年だより等、各種媒体を通して、発信することができた。また、保護者連絡ツールの効果的な活用により、ペーパーレス化に配慮したり、受信者の必要に応じた情報発信をしたりすることができた。 ・学校配当予算、交付金について、児童の学習活動の基盤となるよう有効に活用した。 ・働き方改革について、職員室での声かけをするとともに、教育課程の精選や諸会議の見直し等、各校務分掌グループの取組と合わせて勤務超過等について配慮をした。 ・情報機器（主に校務用PCやGIGAスクール端末）の管理について、新規入替に際し管理簿を新たに整理し、管理に努めることができた。 ○課題として、今後も地域に開かれた教育課程の実施に向けて、より効果的な地域との連携を深め、地域、保護者、学校・職員との連携の形を考えていきたい。また、学校施設等の管理、予算についても、市教委と相談、連携しながら適切な管理、運用を続けていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会については、地域学校協働活動との関わりも含め、地域、保護者、学校とで、子どもを中心に置き、コミュニケーションを図っていきたい。 ・地域学校協働活動の推進に向けて、今年度に引き続いて、学校運営協議会と合わせてこまめな情報交換や連携を進め、地域人材活用・地域における学校の役割などをふまえ、教育課程・学習活動等の充実を図りたい。そのために職員にも様々な分野での地域理解の啓発を図る。 ・安心・安全な学校を目指して、緊急時の対応や防災面について、行事等の取組の反省を生かしたり研修を行ったりして、より実際に役立つよう体制を整えていきたい。 ・学校予算の執行、施設管理については、事務、管理職と連携し、チェックを行い、適切な管理に努めていく。 ・働き方改革について、校務分掌グループ内の職員の連携と合わせて、他の業務等においても適切に分担・協働をする等をする事で、業務等の見える部分と合わせ、職員全体の取組に対する意識を醸成しながら進められるようにしたい。 |
|---|----------|--|--|--|

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会は年3回の計画だったが、それ以外にもこまめに学校と情報交換し連携を取り、教育活動支援や環境整備等の活動をする事ができた。今後もさらに「開かれた教育課程」として、学習年間計画を学校と情報共有し学習活動に関わったり、職員と協働し教育活動を支援したりする機会を増やす等、地域学校協働活動を推進していきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

<まとめ>

学校教育目標の「確かな学力と豊かなこころをもち 自ら未来を切り拓く児童の育成」に向けて、各グループ協力し合い、取り組むことができた。

【学ぶ力の育成グループ】では、「主体的に学ぶ児童」をテーマに、授業実践を中心とした研究に取り組んできた。教師も楽しみながら意欲的に研究に取り組むことができるよう研究会の内容も工夫しながら研究してきた。また、学力向上に関する取組を「学力向上カレンダー」にまとめ、計画的に進めることができた。

【豊かな心・健やかな体の育成グループ】では、安全で安心できる学校づくりを目指し、校内の環境整備や児童の意識向上に取り組んできた。地震や火事、不審者を想定した避難訓練では、児童が自ら命を守るための行動を、繰り返し指導を行ってきた。また、個々の児童のニーズに合わせて、教育相談コーディネーターや児童指導担当教員、こころスマイル支援員やスクールカウンセラーなどが連携しながら情報共有や対応に当たってきたことで、児童の心の安定につながることができた。

【自ら未来を拓く力・実践力の育成グループ】では、主に人権教育の推進、インクルーシブ教育の推進を教育活動全般で進めてきた。環境教育について、春と秋に敷地内の草地や河川近くのふれあいの森を活動の場にして、自然を観察する活動を継続している。また、市の行政経営課や郷土博物館などの協力により体験的な活動の充実を図り、多様な学びを実現することができた。

【学校管理体制・地域とともにある学校づくりグループ】では、施設の安全管理・活用について、市教委と相談・連携し、児童の安全のために施設管理ができた。また、地域との連携においても、児童の登下校の見守りをはじめ、多くの学校行事で協力していただいた。地域の力によって、児童の学びが広がり、安全に実施することができた。

本校は小規模校であるため、各個人の校務の多さはあるが、全教職員で協力し、教育活動に取り組めたことが非常に良かったと感じている。一方、良い面だけでなく、それぞれのグループにおいて、課題を見つけ次年度に生かすための学校評価も定期的に行っている。さらに、保護者の皆様からの学校評価も、次年度の学校経営に生かしていきたい。

<次年度への活動方針>

今年度の教育活動全体を通して、保護者、地域の方々に支えられていることを、改めて強く感じた。次年度に向けては、引き続き多くの方々の支援・協力をいただきながら、前例にとらわれることなく、新しい活動や取り組みなどにもチャレンジしていきたい。